

「市長と語ろう！」 in 女性総合センター 【 概 要 】

平成28年2月13日(土)

10時～11時30分

女性総合センター第3学習室

1 開会の挨拶

(市長)

立川市の第4次長期総合計画が、平成27年度を初年度として10年間の計画でスタートしました。立川市も長期的には人口減少、少子高齢化社会といった方向に向かいます。経済の縮小懸念や、地域社会の活力が失われる可能性など、さまざまな課題を抱える中で、スタートという認識をしております。

市の予算立てをする上では、行財政改革を第一に置き、それを全ての施策のベースに置いてまいりたいと考えております。

若葉町で約40年稼働しております清掃工場を何とか移転をして、建て直しをしていかなければならないということで、立川基地跡地、大山団地のやや南に1.3ヘクタールの土地を確保しました。同時に、周辺住民の皆さんへの具体的な計画の概要をお示しして、ご理解をいただくべく努力をしているところでございます。

まちの安全についてです。まちの安全というのは、市民が安心して暮らすための最も基本的なことであります。犯罪や交通事故、地域の中でのトラブル等がなく、安全・安心して暮らせるための施策を実施してまいります。

若い人たちから子育てをするうえで一番求められているのが、職場でしっかりと働くことができる、職場への再復帰ができるかであると思います。また、働いている間子どもたちを安全に、健やかに預かってもらえる保育園や幼稚園の充実、そして待機児童の解消は喫緊の課題という捉え方をしております。

まちの全体の繁栄も考えていかなければなりません。立川のまちは、東証一部上場、あるいは二部上場などの大きな製造工場はほとんどありません。立川が発信できるまちのにぎわいの源は何かというと、金融機関やIT関係、それから、物販、デパートなどです。

つい最近是有名なドン・キホーテが開店しました。その前には、ららぽーと立川立飛も開店しました。今年は、駅のすぐ隣にある第一デパート跡の「立川タクロス」という再開発ビルに、ヤマダ電機が進出をするという準備も進められています。立川へ大勢の人が来ていただいて、そして消費活動をしていただくことによって、地域や中小企業が潤うという全体の活性化を図っていかなければなりません。そのためのしつらえとして、立川駅の南北のデッキ上に、無料Wi-Fiサービスの提供を始める予定であります。

立川は二十数年前から「まち全体が美術館」構想を進めてまいりました。ファーレ地区の約6ヘクタールの中に、109体のアートを集中的に配置をしております。今まで私どもは手をこまねいていたのですが、立川にはこういったすばらしいアートがあるという発信をしていかなければならないと思っています。ファーレアートを立川の一番の売りとして大々的に発信をしていこうと思っています。

国の税制で法人税、法人市民税の税率を下げた国税化をしていくという大きな流れがあ

ります。立川市の法人市民税は大体毎年50億円程です。これは、多摩26市の中で、市民1人当たりの額にいたしますとナンバーワンです。ただ、法人市民税の国税化によってのマイナスの影響を受け、平成28年度につきましては、税収が6億円から7億円減ってしまうと予想しております。これは大変大きな問題であります。当然収入が減るということは大変大きなものでありますので、これに対しては、政府にも市として、あるいは東京都の市長会として申し入れをしておりますが、なかなか方針の変更はかないそうもないという状況であります。

立川市内の公共施設が老朽化し、建て替えもしなければならぬだろうと言われている中で、税の減収というのは、大変厳しいものがあります。それを少しでも補うためにも、シティプロモーションによって立川市への来街者を多くすることが、私どもにとって一番大きな力になっていくと思っています。

限られた時間ではあります、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

富士見町団地は、築47年たっています。高齢化が立川市の2倍という地区です。そのため、十数年前から建て替えについて検討してきております。平成25年度から立川市の都市計画課と協議を重ねてまいりました。平成27年に地区計画に移行するという協議に入ったところで、市の担当課から建て替え不可能な条件を出されまして、大変困惑しております。

立川市のマスタープランでは、当地区は地区計画を定めて建て替えを誘導する地区ということになっていると存じております。ただいま国でも、築30年を超えた集合住宅については、建て替えしやすいようにという施策を本国会に提出する予定と伺っております。都市計画課の考え方では、建て替えは無理かなと私たちは受け取っています。富士見町団地の建て替えが市の考えでできなくなると、今後立川市にあります集合住宅は建て替え不可能になるのではないかと考えております。

私たちは、市長もおっしゃいましたように、立川市の人口が増えることを願っております。今のままですと876いる所帯の中でも300人以上が出ていかざるを得ないという申し出になっております。都市計画課からこういう形でやってほしいということでは、従いますと、そういうことになってしまいます。私たちは、建て替えて、若い住民を呼び寄せて、にぎわいのある地域にしていきたいと願っております。市長様宛てに富士見町団地の管理組合から出しました要望書を、もう一度お目通しいただければというのが私の願いでございます。

(市長)

建て替えに関しましては、全員の合意がまだできていらないということで、私のところには賛成の方と反対の方からの文書が来ております。長い文章、あるいは資料等をたくさん頂戴しています。その資料等から判断いたしますと、ほんの一部だけの反対かなと最初は思っていたのですが、かなりの割合で反対の方もいらっしゃるということでございます。

私の立場といたしましては、管理組合や自治会もあることございますから、そういう中で、まず第一に団地にお住まいの方々の意見集約といたしまして、一致した方向性を

ぜひお示しをいただきたいです。そういうことになれば、市としてもできる限りのお手伝いが可能な道が開けてくると思っています。

(参加者)

このことにつきましては、3回か4回ぐらいになりますか、総会の中で建て替えの方向でいくということで賛成を得て進めているものです。確かに反対の方もいらっしゃいますが、賛成が多数ということです。

建て替えは全員合意ではなくて5分の4という定めになっておりますので、市との話し合いが進みませんと、とても建て替え決議まで行くことができません。ぜひその辺をよろしくお願いいたします。

(参加者)

民生委員をやっています。

立川市の避難行動要支援者名簿を市長は見たことがあるかどうかは1点目です。私は自分の担当地域の要支援者名簿をもらっています。71名載っていますが、そのうち70名が私と前任者の民生委員が回った一人住まいの老人です。それ以外は1人しかいません。夫婦で車椅子、若者で車椅子という方も結構います。そういう人は1人も入っていません。

障害福祉課からは、要支援者名簿への登録の用紙は窓口に置いてありますと言われていきます。その名簿に載せてほしい場合は、書きに来なさいということです。一人も書きに行きません。ほんとうに困る人の名簿がありません。この2点です。

(市長)

こういう様式の名簿をつくる、こういう形になりますという報告だけは受けておりまして、実際に皆さん方のところにお示しをする名簿の中身はチェックしておりません。名簿の登録方法につきましては、きちんと精査して改善を図ります。

(参加者)

今若葉町では小学校の統廃合が大きな話題になっています。若葉町には2つ小学校がございまして、2つとも古いので1つ新しい小学校をつくる、1つはなくすという動きがあって、それが市の方針であるということになっております。去年の3月の市議会でそういう請願が通ったものですから、それに沿って市の方針をつくって、それが決定しました。

昨年11月に、若葉町の住民への説明会がございまして、教育長に来ていただいているいろいろお話を伺いました。古い小学校を新しくするのはいいが、なぜ2つある小学校を1つなくすんだというところで、かなり疑問や反対の声がいっぱい出ました。その後、当該小学校のPTA、保護者に向けての説明会も開かれました。なかなか納得できないというのが地域の住民の実態だろうと思います。ぜひ市長には若葉町にお越しいただいて、お話を住民が聞いたり、住民の意見も聞いていただいたりという場を設けていただけないでしょうか。

去年11月に住民に対して、小学校の統廃合問題の説明会がありましたが、アンケートを177の方が書いたのですが反対の方が多いです。地域の住民の意向を無視してそのまま進めてしまつては、禍根が残ると思いますので、住民の意向を十分に酌んでいただきたい

という要望でございます。

(市長)

1月に幸福社会館でタウンミーティングを開催しました。参加者のうち複数の方から学校統廃合反対だというお話をいただきました。そこでもお話しさせていただきましたが、教育に関する方向性としては、1人の人間がその価値観で方向性を示すのは好ましくないと考えています。複数の合議制で教育の方向性を論じていくべきだ、あるいは決定をして進めていくべきだと思っております。このスタンスは、これからも変えるつもりはありません。

(参加者)

先日雪が降りまして、自分の家の前の雪かきをするのが精いっぱいなのですが、周りは高齢で雪かきできるのがうちから西側では私だけです。

ところが、最近隣の家に若い家族が越してこられて、高校生のお兄さんと中学校の姉さんが雪かきを全部やってくれました。子どもたちの通学路のところまで全部雪かきをしてくれました。

私は自治会長宛てに電話をして、例えば履歴書の賞罰の欄に自治会で表彰されたということを書けるように提案しています。勉強や検定試験などで内申点が1点上がることよりも、隣近所の雪かきをやってくれたら5点ぐらい上げても良い感じがします。

市として何か表彰制度があるのでしょうか。なければ、若者が社会に貢献するということを督励する制度をぜひ実現していただきたいと思っております。

(市長)

いいお話を伺いました。お話があったようなことが地域社会の中でしっかりと根づくよう地域住民の連携や助け合いの精神をつくっていけるのが、理想の地域社会であると思っております。何か感謝の気持ちをあらわせる、意思表示の場ができればということで、これは研究させていただきます。

(参加者)

先ほどの方が雪かきの話をしていましたが、そういう対症療法では全然解決しないと私は思っています。内申や調査書、入試に役に立つから奉仕を頑張るとか、そういう形になっています。いじめや人間関係の難しさ、携帯電話などで子どもたちは非常に苦しんでいる状態です。すごく難しい問題です。

教育のことです。実は教育の中身ではなくて、行政が持っているそれを後押しする力についてお願いがあります。私は中学校の教員をやっていて、退職した後で今は不登校の子や教え子の子とかの無料塾をやっています。前々回の教科書の採択のときに、選定委員に応募して務めました。そこで要望があります。多摩26市全部の教育委員会の指導係に聞きましたら、立川市だけ学校の先生方に検討する教科書が届けられていません。私は、新任のとき立川だったので、その時は先生方も読んでいました。その中から代表の人が意見を集約していました。今回は他の市と同じように各学校に教科書を見てもらう努力を行ってほしいと思います。

それからもう一点です。小学校の統合については、住民の声を酌み尽くさずに、ある代表の方々がどこかで集まって、それで議会に請願を持っていきました。今若葉町の中では、「どうせどこかで土建屋とグルになっていて、市のほうでも最初から統合を決めていたんじゃないのか。」という疑いが根深く残っています。「にぎわいとやすらぎ」のまちは、私は第2であって、本当は教育のまち立川にしてほしいです。この問題でこんなところもう嫌だ、若葉町から引っ越せばいいんでしようという人も出ています。

行政、統廃合を進めた人達、市議会に請願を持っていった人たちがグルだったということが言い逃れできないような資料もあります。そういう疑惑がすごく渦巻いています。

市長さんにできることは、住民の声を徹底的に酌み尽くすことだと思います。

(市長)

教科書の見本本に関しましては、「多摩26市の中で立川市だけがやらないというのはおかしい」という強い意見がありましたということを担当部署に伝えます。

「疑念があります」というお話の中ですが、私は違和感を持っております。わかりましたと私が言うわけにはいきません。

(参加者)

団体名で申し上げますと、富士見町団地管理組合法人でございます。

先日、要望書を出させていただきました。要望書は要望書として出させていただきましたので、今日はあえてそういうことは申し上げないで、まず、立川市の発展を私も考えております。少子化や人口が減っていく問題など、いろいろ考える中で、市の基本構想は私はよくできていると思っております。その中で、立川市地域見守りネットワーク事業の協働団体として、当管理組合法人は協定を締結させていただいております、現在活動をしているという状況です。

富士見町団地は870所帯ありますが、世帯主が70歳以上という所帯が約50%を占めてきています。その中で、老朽化した建物をどうやっていくのか、また生活をどうやっていくのかです。所得がさまざまな方がいらっしゃる中で、実際、総会という形で決議し、いろいろ進めてきている状況です。先ほどのお話の中で、合意形成が先なのか、計画が先なのかというお話がありました。私は同時だと思っております。おそらく今、高齢者の方たちは希望をなくして、どういうふうにしたらいいのだろうと、毎日救急車が来たりといった、困惑した生活をされている方が結構いらっしゃいます。

賛成、反対、これはどこにでもあると思っております。私たちは正規に道を見つけていかなければいけないという中で、ずっと来ております。それには、4年来、立川市のほうにご協力いただきながら、ご指導も受けながらやってきているという状況だと私は信じております。これを要望書という形で市長さんのほうにはしたためて、月曜日にでもお渡ししようかなと思うので、いろいろなことが書いてあると思えますけれども、ぜひご一読いただいて、お話をその中で把握していただければと思います。合意形成ができているというよりも、計画も重要であると思えます。都市計画の地域計画の整備が重要であるという中で協議をしていかないと、絵空事の計画を皆さんにお示しして、合意形成をとというわけにはいかないと考えております。

お礼を申し上げたいと思っておりますが、去年の27年3月に優良建築物等整備事業の補助制度

の整備に関して請願を出させていただきました。議会のほうでその請願を採択していただきましたことに関して、非常に管理組合の代表として感謝申し上げる次第でございます。進み方によってということですが、私も財政のことなどいろいろなことも考えながら、それができなくても我々の自助努力でやっていきたいと考えておりますので、ぜひ指導のほうもひとつよろしくお願ひしたいと思っております。

(市長)

いろいろな報告書が私のところへ来ております。いろいろな報告を聞きながら、今後の判断をしてまいりたいと思っております。ただ、担当は大変苦勞しているようです。いろいろなご意見がある中で、そういう報告も受けております。

(参加者)

防災訓練のあり方について伺いたいと思います。現在実施している防災訓練は、ほとんどマンネリ化した状態です。参加者も固定化されたような状態で、はたして実際に地震が起きたときに役に立つかという感じがしております。立川市として今のままでいいのか認識をお伺ひしたいです。

(市長)

災害対応に精通なさった方にとっては、市が実施している訓練は物足りないと思われるのは当然だろうと考えております。私も、かつて消防団にいた経験から申し上げても、それはやむを得ないだろうと思っております。地域の中心となって防災に動いていただけるのは自治会の皆さんです。自治会の役員さんは2、3年で交代をしていくわけでありますから、新しい役員さんにも周知をしていかなければなりません。

また、中学生にはこれからは助けるほうの最前線で動いてもらうという方向になっております。同じような訓練を繰り返すことにより、いざというときに冷静に判断、行動ができるということでもあります。さらに高度な訓練ということになりますと、予算や場所の問題等がございますので、これからもできるだけ工夫を凝らしながら実施したいと思っております。

(参加者)

私は子育て支援コミュニティの代表をしております。私自身も立川市で妊娠、出産、子育てをして、今1歳の息子がいます。団体としては「ママとつながる、まちとつながる」ということで、お母さん同士のコミュニティだけでなく、まちに住んでいる年配の方や若者の方、学生の方から、これから結婚する、出産するという方も含めて、みんなで地域の子どもを見ていこうということを狙って団体を立ち上げました。

私が臨月のときから立川市さんにはこういうことをやりたいと声を上げていました。最初は市民の声で投稿させていただいたところ、子育て推進課の課長さんがわざわざお会いしてくれて、いろいろな方をご紹介いただくなどすごく親身に相談に応じてくれました。立川市は子育ての講座がすごく多いですし、今日のように保育に預けて、催しに参加できますし、立川市の子育てに関してすごく期待をしています。

ですが、あったらいいのという部分もたくさんあります。例えば子育て広場などに関

しても、場所を提供するだけでは、一過性のものになってしまいます。生活に根づいて支え合っているコミュニティになっているかという、そうではない部分があると思っています。

行政は箱物がつくれたり、システムがつくれたりというところが強みです。私たちは現場を知っている、いろいろな思いもあります。もっとお互いの強みを生かしながら、一緒にできないかなというのが今の思いです。

私は団体の代表です。例えば連携と言っても市に助成金を申請してお金をもらい進めますということではなく、場所を提供してもらうだけではなく、持続可能なものにしていきたいと思っています。

市としてはどう感じられているかというところを、ぜひお聞かせいただけたらと思っています。

(市長)

近隣の自治体の中でも早い段階で子育てひろばをつくりました。目標は市内17か所です。

子ども未来センターでは、子育て部門と教育部門が一緒になって机を並べて、子どもさんのいろいろな相談が1か所でできます。多くの予約をいただきお待ちいただいている状況ですので、さらに充実をしていかなければなりません。

どうぞどんどんご提案をお願いします。

(参加者)

「たちかわ創生総合戦略」が1月25日に広報で紹介されていました。そこには2060年までの人口減少に歯止めをかけるとありますが、今若葉町の学校統廃合の問題というのは、これの真逆を行っていると確信しました。統廃合の計画について、きちんと市民合意形成がされているかを検証していただきたい。

私たちは、統廃合を求める1,300署名に対して、存続を求める7,000超の署名を集めました。2つの小学校の改築のための費用が財政逼迫の折から、地域の要望を装って行政が巧妙に推進していくという事実です。このことを決して忘れないで、考えていただきたいと思います。

(参加者)

自治会の役員をやっています。絆カードをあまり利用したことがなくて、絆カードを提示するとごみ袋の割引があるなどすれば、自治会の加入率が上がると思っています。

(参加者)

富士山噴火が今注目を浴びつつあります。対応につきまして今後検討していかなければいけないと思います。

(市長)

小学校の統合につきまして、行政が裏で画策を進めて、そのとおり動いているというのは、私としては首を縦に振るわけにはまいりません。このことだけ申し上げておきます。

ごみについては、有料化で分別をしていただいたおかげで、ごみを燃やした灰はほぼ全

でエコセメントに変わっています。実質的にごみを埋め立てしないで済むようになりました。これは有料化で分別のおかげだと思っています。

富士山の噴火につきましては、3年ほど前に私は富士山のふもとにある富士山科学研究所の所長から講演をいただきました。宝永の噴火程度の噴火が起きた場合には、東京の機能は壊滅してしまうというぐらいのすさまじいエネルギーということをお聞きしました。これは私も頭の隅にいつも入っております。

3 閉会の挨拶

(市長)

さまざまな形でのご意見を頂戴いたしました。今後の行政運営の糧にさせていただきたいと思います。今後とも立川市政発展のために皆さん方のご協力をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。